

かほく市議会 広報特別委員会 視察報告

【研修日程】

平成29年8月2日（水）～3日（木）

【視察研修先及び内容】

1. 産経新聞大阪本社 : 効果的な紙面のレイアウト・見出しについて
2. 滋賀県竜王町 : 議会広報の編集・発行について

【参加者】

広報特別委員長	板谷	悦郎
副委員長	杉本	正一
委員	金子	猛
	丸井	一範
	大西	潤
	野田	稔彦
	塚本	佐和子
随行	森	益啓
	沖野	良一



産経新聞大阪本社



竜王町議会

【産経新聞大阪本社】

(効果的な紙面のレイアウト・見出しについて)

当市の議会だよりと平成28年度 町村議会広報表彰で最優秀賞を受賞した、宮城県利府町議会の「りふ議会だより」を比べながら、説明を受けました。

「りふ議会だより」の良い点としては、

- ・議会が何を伝えたいかではなく、住民がどう読むか（何に関心があるか）という視点でつくられている。
- ・予算関係の記事では、目玉事業をタイトルのトップに。
- ・グラフやイラスト、写真を多く使い、行政用語には、補足説明がある。などがありました。

「かほく市議会だより」については、

- ・内容的には悪くは無いが、1ページ目から文字ばかりだと読む気がなくなる。との厳しいご指摘とあわせて、
- ・全てを伝えようとするとう長くなる。言いたいことにスポットを当てる。
- ・若者に読んでもらうためには、説明は丁寧に、かつ簡潔に。

難しい行政用語は使わない。

中学生レベルに合わせれば、誰にでもわかってもらえる。

などの、助言もいただきました。

プロからみても良くできた手本である「りふ議会だより」を例に、タイトル、レイアウト、ちょっとした工夫などについて具体的な説明と、当市議会だよりを、より良いものにするためのアドバイスを聞くことができ、今後の編集作業に役立つものと思いました。

【滋賀県竜王町】

琵琶湖の東南部、蒲生平野に位置し、面積は44.55平方キロメートル、人口は約1万2千人の田園都市であります。

肥沃な大地に恵まれた古くからの農業のまちで、良質な「近江米」が生産され、「近江牛」の肥育の本場であり、「近江牛発祥の地」を宣言しています。

また、昭和56年に町内を横断する名神高速道路に「竜王インターチェンジ」が開設され、樹脂、印刷、機械、食品等の工業面においても急速に発展してきました。

(議会広報の編集・発行について)

竜王町の議会だよりは、平成27年度全国町村議会広報コンクール「編集・デザイン部門」で、「奨励賞」を受賞しています。

議会だよりの編集に関して工夫されている点として、

- ・委員がかわっても、安定した質のものが作れるように、「議会広報編集マニュアル」を策定している。
- ・一般質問や委員会で調査した内容について、町がその後どのように対応したかを追跡・検証する記事を掲載している。
- ・「シリーズ いきいき人生」など、議会の情報だけではなく、住民が参加・登場する記事を掲載している。 などの説明がありました。

特に、次世代を担う中学生にも伝わる「分かりやすい、読みやすい広報」を目指し、取り組んでいるとのことでした。

表紙写真やタイトル、文面、イラスト、シリーズものなど、全ページにおいて住民に読んでもらおうとする工夫がみられ、また、「伝える、伝わる、つながる」をテーマに、熱心に取り組む委員の姿勢が伝わってきました。

今回の視察研修の成果を生かし、これからも「議会だより」を通じて市民の方に議会活動を理解してもらい、議会に親しみをもっていただけるようにしていきたいと思っております。